

せんらいみち 安原

安原の
いま

総人口 4,673人 (前年比+12人) 【男 2,251人 女 2,422人】
安原地区公民館 〒390-0802 松本市旭2-11-13 TEL 0263-39-0701



盛り上がったビンゴ大会(右と会場を埋めた地域の人たち)



熱気に満ちたビンゴ大会

「サマーナイトフェスタIN安原」 多彩な催し 歓声響く

サマーナイトフェスタIN安原が7月20日、安原地区公民館で開催され約300人が恒例の催しを楽しみました。朝から雨模様で、館内でのイベントとなりました。あさひ太鼓の演奏が始まり、スリル満点のジャグリングや人気のビンゴ大会など、最前列に陣取った子どもたちが歓声を上げました。

清水牧場で自然満喫

安原地区公民館 信大tentとバス企画

安原地区公民館と「学校とはちよつと違った学び」を目指す信州大学tentとの共催バス企画は、8月9日、15人が参加して奈川フォレストフィールドと清水牧場で開かれました。清水牧場は60ヘクタールの広大な敷地に18頭の牛がゆったりと放牧されています。バスの中ではクイズ形式でチーズができる工程を学び、牧場に到着する

と、子どもたちは軽トラックの荷台に乗せてもらって中腹へ。バッタを追いかけたり小川で遊んだり、のびのびと過ごしました。現れた牛の群れに近寄ると、草を食べる音がします。子どもたちは初めて見る生きた牛の大きさにびっくりしたようでした。フォレストフィールドではお弁当を食べた後、アスレチックコーナーで元気いっぱい動き



河童橋で写真に納まる参加者

上高地で研修

安原地区公民館主催の上高地自然観察研修が7月24日に開かれ、地元の人たち13人が

世界有数の山岳景勝地の自然や歴史に触れました。参加者はガイド役の市あがたの森文化会館職員、牛丸工さんの説明を受けながら大正池から田代池、帝国ホテル、河童橋などを巡る約5キロを散策しました。

梓川畔にあるウエストーン広場では、日本アルプスを世界に紹介した英国人宣教師の功績をしのびました。レリーフを収めた岩には「滝谷花崗閃緑岩」という花崗岩が用いられている、との説明を興味深そうに聞いていました。

河童橋の1帯では多くの外国人観光客が夏の上高地観光を楽しんでいました。



放牧されている牛に恐る恐る近づく子どもたち

回っていました。tentの学生は「生き物を間近で感じることはとても大切。子どもと一緒に楽しんだ」と振り返りました。

メソード育ちの調べ 鈴木鎮一記念館コンサート

7月28日曜日の午後、第13回子どもたちによる鈴木鎮一記念館コンサートが開かれました。

神戸でスズキ・メソードを学んでいる小学2年生から大学生までの生徒18人と、関西地区で活躍する指導者が、演奏を披露しました。

今年3月、リニューアルオープンした記念館のホールに集

まった50人の聴衆を、熱い弦楽の響きで魅了しました。

この日の演奏は、子どもたちのユニゾンの演奏に加え、曲によって二重奏・三重奏・四重奏と弦楽合奏で厚みのあるハーモニーが聴けました。

指導者のバイオリンとピオラにチェロも加わり、心地よい響きに会場は満たされました。

前半の終わりには、指導者に



演奏を終えた子どもたちに語りかける早野会長

ある指導者の息の合った演奏も楽しめました。

アンコールに演奏されたのはシューベルトのアベマリアです。この曲はピアノを伴奏に、演奏者全員で甘く優しい調べを奏でました。

才能教育研究会会長の早野龍五さんは「この場所でも60年前に鈴木先生のレッスンを受けました」と述べ、記念館副館長の等々力由希子さんは「カルテットの伴奏が素晴らしいかった。スズキ・メソードの生演奏を地域の方がもっと聴ける機会を増やしたい」と意気込みを語りました。



全国からファンが集う信大・松高寮歌祭

安原地区公民館

信大キャンパス探検隊⑬

寮歌「春寂寥」

信州大学の前身で、その中核を成す旧制松本高等学校の思誠寮寮歌「春寂寥」。あがたの森の緑陰で歌い継がれてきた断章と旋律は「学都の文化遺産」でもあります。

吉田実の作詞、作曲は濱徳太郎。在学中の松高生2人による名曲は、大正9年(1920年)にできました。松高30年とい

う短い校史にあって若人5千人の哀感を映してきました。

青春の思索や孤独感を春夏秋冬に託しました。季節はいつも早足で、速度を増して過ぎていきます。年配者は年齢を経てこそ見えてくる情景や心模様を重ねます。誕生から1世紀。「春寂寥」が時空を超えて輝くゆえんです。

寮生たちの口伝えで引き継がれ、消えかかった時期もありました。

寮歌を愛する系譜は、松高同窓会が主催した「寮歌祭」や市民有志を交えた「信大・松高寮歌祭」と受け継がれました。

寮歌を愛する系譜は、松高同窓会が主催した「寮歌祭」や市民有志を交えた「信大・松高寮歌祭」と受け継がれました。



レンゲショウマ

開花前の肥料は控えめに、蕾の落下を防ぎます。花期は8〜9月で長いこと楽しめます。

いちよう並木

深山の湿地帯に育つ茶花蓮華升麻(レンゲショウマ)

キンポウゲ科レンゲショウマ属の植物で、古くから茶花として親しまれる山野草です。

同じキンポウゲ科に属するサラシナショウマに葉が似ているところから、この名が付られたと言われております。

日本特有の花で茎は50〜80センチほど、地下に太い根茎があり、花は淡い白紫色で下向きに咲く風景はいかにも日本人好みの山野草。

蕾の時間が長く、開花まで2カ月はかかります。

栽培は比較的簡単で、以前紹介したキレンゲショウマと同様、露地栽培も鉢栽培も毎年、または隔年に植え替えが必要で、植え替えと共に株分けで増やすことができます。肥料を好むため、油かすや骨粉を株の周りに埋め込みます。